博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏　　名	SU Wenxin
学　　位	博　士（文学）
学位記番号	新大院博（文）第61号
学位授与の日付	令和3年3月23日
学位授与の要件	学位規則第3条第3項該当
博士論文名	明治時代における美を表す語彙の研究 ―「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」を中心に―
論文審査委員	主　査　教　授　鈴木　恵 副　査　准教授　岡田祥平 副　査　准教授　磯貝淳一

博士論文の要旨

本論文は，日本語で美を表す語彙の中から代表的な「ウツクシイ」「キレイ(ダ)」を取り上げ，明治時代における両語の意味・用法を究明しようとする目的を持つものである。対象は日本の文学作品とし，具体的には『CD-ROM 版 新潮文庫 明治の文豪』（本論文で取り上げた 10 作家の 47 作品を所収，この他の３名（小泉八雲・上田敏・石川啄木）は除外）を主材料として調査・分析を行った。

本論文は，以下のとおり全七章で構成されている。

序章
　第一節　研究背景と研究目的
　　第一項　美に関する語彙の研究史管見
　　第二項　研究目的
　第二節　研究方法
第一章　「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」の数量的概観
　第一節　調査対象資料の選定
　第二節　調査範囲における数量的概観
　第三節　まとめ
第二章　夏目漱石における「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」
　第一節　数的概観
　第二節　分析

第一項　『虞美人草』
第二項　『草枕』
第三項　「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」における感情の位相差
第四項　「ウツクシイ」のみ見られる作品と「キレイ（ダ）」のみ見られる作品
第三節　まとめ
第一項　共通点
第二項　相違点
第三章　国木田独歩における「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」
第一節　数的概観
第二節　分析
第一項　『日の出』とその他
第二項　登場する「女性」と用例数との関係性
第三節　まとめ
第一項　共通点
第二項　相違点
第四章　長塚節における「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」
第一節　数的概観
第二節　分析
第一項　『土』とその他
第二項　「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」における感情の位相差
第三項　「ウツクシイ」が見られない原因
第四項　仮説検証－伊藤左千夫の『分家』
第三節　まとめ
第一項　共通点
第二項　相違点
第五章　「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」における女性の身分の位相差
第一節　田山花袋
第二節　森鷗外
終章　「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」のまとめと今後の課題
第一節　「ウツクシイ」
第二節　「キレイ（ダ）」
第三節　今後の課題

序章では，第一節において，美に関する語彙の研究史を素描し，その中で「うつくし」「うるはし」「えん」「きよし」「きれい」「なまめかし」「らうたし」の７類，11 語について検討した結果，明治時代の「うつくし」「きれい」類（第二節以降は「ウツクシイ」「キレ

イ（ダ）」と表記）に焦点化すべきことを導き出した。第二節 では，「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」の使用状況を概観し，連体修飾語や述語に用いられるものを「名詞に使用する場合」，連用修飾語に用いられるものを「動詞に使用する場合」としてまず二分し，それらをさらに細分して観点を定め，分析・検討を行うという方法を提示した。また，その際に発現する語の意味として，『日本国語大辞典』第二版（小学館）等の辞書類により，次の８項目を設定した。

①乱れなく，整っているさま。

②美麗であるさま（目に快く映るさま）。はなやかで，きらびやかなさま。

③振る舞い，出来事が見事で，立派なさま。ものの壮麗であるさま。

④汚れなく，澄んで清らかなさま。悪い噂がなく，罪のないさま。

⑤残余のないさま。あとくされのないさま。

⑥新鮮であるさま。

⑦（肉親や幼少に対する）かわいい，愛らしいさま。

⑧精神的で豊かで気高く，人に感銘を与えるさま。

第一章では，「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」の数量的概観を見るため，まず近代語研究に利用される『太陽コーパス―雑誌「太陽」日本語データベース―』（国立国語研究所）を用いて２語の用例数を調査し，それらが日本十進分類法 NDC900 番台の「小説・物語」というジャンルに圧倒的に多用されることを確認した。そこで，資料として『CD-ROM 版 新潮文庫 明治の文豪』を中心に据えつつ，『漱石全集』（岩波書店）『国木田独歩全集』（学習研究社）等の書籍を加えて，尾崎紅葉（４作品），二葉亭四迷（６作品），森鷗外（22 作品），樋口一葉（９作品），泉鏡花（11 作品），国木田独歩（74 作品），田山花袋（12 作品），夏目漱石（30 作品），長塚節（８作品），伊藤左千夫（３作品）の 10 名の作家を調査した。その結果，その中で夏目漱石が２語の用例数が最も多く，使用作品率が最も高いこと，国木田独歩は作品数が漱石よりも多いにもかかわらず，２語ともに用例数が少ないこと，長塚節の『土』は長編小説ではあるものの，「ウツクシイ」がまったく看取されないこと等がわかった。

以上の点を踏まえ，本論文では序章に述べた研究方法に基づき，まず夏目漱石の作品における「ウツクシイ」「キレイ(ダ)」を分析し，その意味・用法を明らかにした上で，その分析結果に基づいて国木田独歩・長塚節等の作品分析を行い，２語が少ない原因や「ウツクシイ」が看取されない原因を探ることとした。

第二章では，まず漱石作品の「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」の数量的概観を押さえ，30 作品中「ウツクシイ」が看取されるのは 25 作品，されないのは５作品，「キレイ（ダ）」が看取されるのは 23 作品，されないのは７作品，何れも看取されるのは 20 作品，されないのは３作品にすぎないこと等を確認した。続いて『虞美人草』『草枕』『三四郎』『行人』

『彼岸過迄』を中心に，詳細に分析・検討した結果，名詞に使用する場合には，「人物」の性別，年齢，身体部位に相違が見られ，中でも女性に対しては，情愛の有無により２語を使い分けていることがわかった。これは，例えば『草枕』の登場人物「那美さん」に対して，主人公が好意を持つには至っていない段階では「キレイ（ダ）」を用い，好意を持つに至ってからは「ウツクシイ」を用いているところに，端的に表れている。また動詞に使用する場合には，心理や感情を表す動詞について２語の相違が見られることがわかった。

第三章では，まず独歩作品の「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」の数量的概観を押さえ，74 作品中「ウツクシイ」が看取されるのは 17 作品，されないのは 57 作品，「キレイ（ダ）」が看取されるのは９作品，されないのは 65 作品，何れも看取されるのは３作品，されないのは 49 作品であることを確認した。次に何れか一つでも看取された 23 作品について詳細に分析・検討した結果，２語の多寡には関係なく，情愛の感情がある女性に対しては，「キレイ（ダ）」ではなく「ウツクシイ」を用いているなど，漱石と共通する点があることがわかった。

第四章では，まず長塚節作品の「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」の数量的概観を押さえ，８作品中「ウツクシイ」が看取されるのは４作品，されないのは４作品，「キレイ（ダ）」が看取されるのは６作品，されないのは２作品，何れも看取されるのは３作品，されないのは１作品であることを確認した。続いてこの８作品について詳細に分析・検討した結果，やはり情愛のある医者の一人娘・舘野には「ウツクシイ」を用いているが，名前も知らない瞽女に対しては「キレイ（ダ）」を用いており，ここでも漱石との共通点が確認された。

第五章では，第二章から四章までの考察を踏まえ，改めて「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」と表現される女性の身分差を取り上げて，田山花袋と森鷗外作品の分析・検討を行った。その結果，花袋の『田舎教師』の登場人物である青陽楼の妓女・小滝や，鷗外の『余興』における芸者・鼠頭魚（きす）に対しても「ウツクシイ」を用いていることから，身分の高低に関係なく，主人公の情愛があれば「ウツクシイ」を用いることがわかった。

以上の考察を受け，終章では「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」の意味・用法を以下のようにまとめた。

【ウツクシイ】

１．「ウツクシイ」は「動詞に使用する場合」よりも「名詞に使用する場合」が多く，名詞の中でも「人物」の「女性」に対して多用される。とりわけ，情愛のある，気を引かれる女性に対して用いられる。もともと，上代の「うつくし」が「非常に親密な肉親的な愛の感情の表現」として使用されていたことにつながっている。

２．「ウツクシイ」は「キレイ（ダ）」よりも身分の高い女性に用いられることが多いが，情愛がある女性に対しては，たとえ身分が低くても用いられている。

３．「ウツクシイ」は，稀にベテランの男性役者，上品な男性，感銘を与える男性などにも用いられる。

４．「ウツクシイ」は，実体を持つ「もの」に対しては，意味②「美麗であるさま。はなやかで，きらびやかなさま。」，実体のない「こと」に対しては，意味⑧「精神的に豊かで気高く，人に感銘を与えるさま。」で用いられることが多い。

５．「ウツクシイ」を「動詞に使用する場合」は，「見える」「思う」のような状態や心理を表す動詞に連用修飾することが多く，意味②で用いられる。

６．「ウツクシイ」の使用状況は，作品の内容や背景に大きく関係するが，情愛のある女性に対して用いられ，心理描写に用いられることが多いことから推察すると，意図的・主観的に使用されていることがわかる。

【キレイ（ダ）】

１．「キレイ（ダ）」は「名詞に使用する場合」よりも，「掃除する」「片付ける」などの「動詞に使用する場合」が多く，意味②以外に，意味①「乱れなく，整っているさま。」，意味④「汚れなく，澄んで清らかなさま。悪い噂がなく，罪のないさま。」，意味⑤「残余のないさま。あとくされのないさま。」として用いられる。「キレイ（ダ）」は，主に意味①②④⑤を担っており，意味②⑧中心の「ウツクシイ」とは異なっている。意味②を共通に持ちつつも，意味①④⑤と意味⑧の部分で異なりを見せている。「キレイ（ダ）」の方が幅広い意味・用法を担っている。

２．「キレイ（ダ）」も，「人物」の「女性」に対して多用されるが，「ウツクシイ」とは異なり，情愛のない女性に対して使用される。自分の幼少期を振り返って，自らの整った顔立ちを自慢している男性のセリフの中にも用いられている。

かつて，宮地敦子（1971）は「〈うつくし〉の系譜」（『国語と国文学』48-8）において，平安和文作品の「ウツクシ」「キレイ」を分析・検討し，「ウツクシ」が「キレイ」に取って代わられることはないだろうと述べたのであるが，明治時代における両語の状況は，まさにそのようになっていることが知られる。この状況が大正・昭和時代，そして現代にまでつながっているか否かの検討は，すべて今後の課題である。

審査結果の要旨

本論文は，明治時代の文学作品における美を表す語彙の中から代表的な「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」を取り上げ，両語の意味・用法を究明しようとしたものである。本論文で明らかになったことは上述したとおりであるが，特に注目される点は，次下の諸点である。

１．本論文は，明治時代の「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」を考察したものであるが，上代か

らの古典文学作品における両語にも着目し，通時的な観点をも取り入れている。今後の国語史的な研究への進展が期待されるところである。

２．本論文は，「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」の２語以外にも，先述した７類，11語の類義語についても先行研究を博捜し，研究史を素描している。今後の本格的な語彙研究への発展が期待されるところである。

３．本論文は，資料を選定するに際して，データベース『太陽コーパス』を利用して２語の用例数を調査し，それらが「小説・物語」というジャンルに圧倒的に多用されることを確認した上で，『CD-ROM版 新潮文庫 明治の文豪』を選定している。さらに作品の偏在を想定して，これに『漱石全集』や『国木田独歩全集』等の書籍も加えて調査している。その結果，10作家179作品もの膨大な資料を分析している。

４．本論文は，「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」の意味・用法を分析・検討するに際して，「名詞に使用する場合」・「動詞に使用する場合」，「人物」・「事物」，「性別」・「年齢」・「身体部位」，「もの」・「こと」，「動作」・「状態」・「認識」・「心理」等に細分化して考察した結果，情愛の感情を抱く女性に対しては，「キレイ（ダ）」ではなく「ウツクシイ」を用いていること等の新発見がなされた。

５．本論文は，意味・用法を分析・検討するに際して，『日本国語大辞典』第二版等の諸辞書を活用し，厳密に８項目の意味の柱を設定したが，これが効果的に機能している。

ただ，本論文審査委員会からは，時代を明治時代に特化した理由付け，江戸時代や大正・昭和等，前後の時代の分析・検討の必要性，数量的な側面への偏重，語彙研究としての捉え，「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」を用いない美的表現の存在，「ウツクシイ」「キレイ（ダ）」の原義，それぞれの意味の歴史的展開等への考及に尚不十分な点があることが指摘された。しかしながら，それらは本論文の学術的価値を大きく損なうものではなく，むしろ本論文の今後の発展性を期待させるものでもある。

以上の審査から，本論文審査委員会は，全会一致で，本論文が博士論文としての水準に達しており，また日本語学固有の分野に関する内容であることから，博士（文学）の学位を授与するに値するものと判断した。